



ユリノキ

(ハンテンボク、蓮華木、チューリップツリー)



学校法人中部大学 監事 太田明徳



モクレン科、ユリノキ属、*Liriodendron tulipifera*、北アメリカ東部原産、落葉広葉樹。明治初期に渡来した30粒の種から育った苗木の一本は明治14年に国立博物館に植えられ、現存する。中部大のユリノキは、キャンパス中央の芝生庭園の北西部、クラブハウス近くに10本ほどがある。いずれも20-30mの高木で、艶のある緑の葉が光を反射して風に揺れ、堂々とした樹形である。

原産地では樹齢500年、60mに達する大木もあるらしい。開拓時代に材と

して盛んに利用され、アメリカニレとともに「*liberty tree*」として独立の象徴にもなったらしい。ワシントンはこの樹を好み、自らの農場に植えたという。Edgar A. Poeの「黄金虫」では、海賊Kiddの財宝は目印となったユリノキの大木の傍らに埋められていた。ユリノキに新大陸の風影を感じるのは筆者だけだろうか。

和名は属名の直訳らしく、蕾と未成熟な果実の形はユリの蕾に似ている。他に、葉の形が半纏に似ているのでハンテンボク、花が蓮の花を思わせるのでレンゲボク（蓮華木）、花がチューリップを思わせることから、tulip treeなどの名がある。

花は4月に咲く。花弁は9枚あり、うち3枚は外に垂れ下がって萼のように見える。6枚は蓮花状の花弁となって果軸の雌しべの集合体と多数の黄色い雄しべを囲む。花弁の上部は薄い黄緑色で、中部はオレンジ色の縞となり、下部は白に近い。オレンジ色の内

側に蜜腺があり、多量の蜜を分泌するので蜜源植物となる。滴る蜜が昆虫や鳥も引きつけるためか、花が樹下に散らばっていた。香りには柑橘系のリモネンが含まれるらしい。

たくさんの花をつけて高く直立するユリノキの姿は若さと未来を思わせ、学園にふさわしい。花弁が失われた後、先の尖った果軸を囲んで十数片の木化した翼果が開く。その姿は燭台のようである。燭台はやがて壊れ、翼果は風に吹かれて散る。

参考

- ・朝日百科「世界の植物」第9巻、植田邦彦、朝日新聞1997
- ・「木の散歩道」、廣野郁夫「木のメモ帳」所載、kinomemocho.com
(独) 森林総合研究所林木育種センター 北海道育種場長
- ・Wikipedia「ユリノキ」、「tulip tree」、「The Tulip Tree: Historic American Hardwood」、Gwen Bruno、(<https://davesgarden.com/guides/articles/view/4265>)
- ・Edgar A. Poe「黄金虫・アッシュャー家の崩壊」八木敏雄訳、岩波文庫2006、(物語の舞台であるチャールストン近郊では11月半ばのユリノキは黄葉中か?)